

曲尺の使い方

JJ1SXA/池

曲尺(かねじゃく)は、矩尺とも書き、指金(さしがね)、かねざし、まがりかね、などとも言うようです、TWO-FORTY誌第66号番外編(平成18年12月発行)で、「1対ルート2」という記事を書き、その中で一部触れていますが、この優れたものの使い方を、もう一度勉強し、このくらいは、日常生活に役立つ技術だと思ったことの一部を私個人の備忘録の積りで書き留めます。

日本の計量法では、メートル法以外の基準を用いる計量器の販売が禁じられているため、現在製造されているものの多くは尺貫法の1寸の長さに等しい尺目盛りでありながら、目盛りは33分の1メートル単位で振っており、「1/33メートル」などと表示されている。

ご存じのように金属製の直角に曲がった定規で、裏表共に目盛りがふつてあります、長い方が「長手」、短い方が「妻手」、裏目盛りは、「角目」と「丸目」、「角目」は表の目盛りを $\sqrt{2}$ 倍(1.414倍)した目盛、「丸目」の目盛は表目の π 倍、つまり円周率倍になっている。

妻手を上に、長手を下に直角に下した状態で、妻手が右に向くようにした時見える目盛りが「表目」で、妻手が左に向くと「裏目」が見えます



これの反対向き(妻手が右側)になると「表目」

規矩準繩(きくじゅんじょう)という言葉があります、これは中国の孟子の言葉で、物事や行動の基準、手本を正しくすることを意味します、そして、この言葉は、大工さんととても深い繋がりがあります、大工さんの伝統技術に規矩術(きくじゅつ)というものがあり、規矩術とは大工さんの数学のようなもので、この規矩準繩という言葉から来ているようで、「規」とは「円を描く」、「矩」とは「方向、直角」、「準」とは「水平」、「繩」とは「垂直、鉛直」ということを意味し、これらは家造りの最も基本のことだそうです。

使い方の基本ですが、色々ありますが代表的なものは、当たり前のことですが、「寸法を測る」、直角を利用して、「直角に墨をつける」、角目を使って「角材の寸法取り」、「角目」で丸太の直径を測り、何cmの角材(柱)がとれるかを求めることができます、丸目を使って、「直径を測って円周を知る」、丸いものの直径を丸目で測れば、その目盛が、即、円周の長さということになります、深さを測定するための、「深さ測定目盛」で深さの寸法を知り、後は、「等分割」するのに使う、これは便利な方法です、材料(板等)の寸法が、簡単に割り切れないような数値でも、曲尺を斜めに、等分割する切りのよい数字(例えば、2分割なら2の倍数、3分割なら3の倍数)に当てて、等分割だ、普通の定規でもできるが…

まあ、使い方は、他にも色々あります、曲尺を使いこなせば、三角関数を知らなくても、或いは、電卓を使わなくても、高度なことができ、便利な点が多い。

「さしがね」には、操り人形で、人形の腕や手首・指を動かすために用いる細長い棒を言う場合もあり、転じて、陰で人に指図して操ることの意味もある。(誰の指金だ?)